

## 『実践英語音声学』投稿用スタイルシート

### 1. 本文の使用言語

日本語, もしくは英語。

### 2. 原稿書式

原稿は横書きとし, 原則として Microsoft Word A4 判 (幅 210mm, 高さ 297mm, 拡張子は.docx) で作成すること。上下左右ともに, 20mm ずつ余白をとり, 1 行全角 38 字 (英文の場合, 約 76 字), 43 行 (行送り 17.3pt) の書式を用いること。

### 3. 分量

原則として, 要旨, 資料, 参考文献などをすべて含めて 30 ページを上限とする。

### 4. レイアウト

最初のページの第 1 行目は空白行 (以降空白行はすべて 10.5pt) とし, 第 2 (及び第 3) 行目に論文の題名を記し, 第 4 行目は空白行として, 第 5 行目に「\*\*\*\*」(採択後, 氏名を入れる) と記し, 第 6 行目に「\*\*\*\*」(採択後, 所属を入れる) と記すこと。第 7 行目は空白行とし, 第 8 行目以降に執筆言語で要旨もしくは Abstract を示すこと (要旨については 5.2 を参照)。その後, 1 行空けて, 執筆言語によるキーワードを 5 つまで書くこと。続く行は空白行として, その次の行から本文を書き始めること。また, 新たにセクションを始める場合には, その前に 1 行空けること。なお, 氏名・所属については, 別紙に記入のため, 原稿には記入しないこと。

### 5. フォント及びその大きさ, 配置

和文フォントは MS P 明朝, 英文フォントは Times New Roman を基本として, MS ゴシックの使用を認める。ただし, 国際音声記号については Doulos SIL Regular を使用すること。これ以外のフォントの使用は原則として認めない。英文フォントの太字体, 斜字体の使用は認めるが, 題名, 副題を除いて, 和文フォントの太字体, 斜字体の使用は認めない。特殊文字のフォントは以下のサイトからダウンロード可能。

[http://scripts.sil.org/cms/scripts/page.php?site\\_id=nrsi&id=DoulosSILfont](http://scripts.sil.org/cms/scripts/page.php?site_id=nrsi&id=DoulosSILfont)

文字の大きさについては以下に従うこと。

#### 5.1 題名, 副題

題名は, 18pt の太字, 中央揃えとすること。副題がある場合には, 和文の場合は, 改行した上で, 副題の前後に波ダッシュ (～) を入れ, 波ダッシュから波ダッシュの間を 14pt の太字, 中央揃えとすること。また, 英文の副題に関しては, 題名の末尾に半角

コロンを入れた上で、改行し、副題を 14pt の太字、中央揃えで示すこと。

## 5.2 要旨

本文に準拠する。和文の場合、「要旨」と MS ゴシック 10.5pt、中央揃えで記して、改行した後、要旨本文はインデントを設けずに、MS P 明朝、10.5pt とすること。英文の場合、Abstract と、Times New Roman、10.5pt、太字、中央揃えで記して、改行した後、インデントを設けずに、Times New Roman、10.5pt、両端揃えで Abstract 本文を記すこと。

## 5.3 キーワード

「キーワード:」は MS ゴシック、キーワード自体は MS P 明朝、Times New Roman とし、両方とも 10.5pt の中央揃え。英文の場合は、すべて Times New Roman、10.5pt とし、「Keywords:」のみを斜字体で示すこと。

## 5.4 本文

10.5pt、両端寄せとし、英語等の単語は自動区切りを使用すること。和文の場合は、段落最初は全角 1 文字分下げする。英文の場合は、3 文字分インデントする。本文中の注番号は上付文字とする。句読点については、和文では「,」「。」を、英文では「,」「.」を用いること。また、カッコについては、引用文献に関わるカッコは半角カッコ ( ) を用いること。これ以外の場合には、カッコの中に入る言語が日本語であれば全角カッコ ( ) を使用し、これが英数字であれば半角カッコ ( ) を用いること。なお、半角カッコを用いる場合には、例のようにその前後に半角スペースを入れること。

例：外国語としての英語 (English as a Foreign Language, EFL) を...

※ ( ) は半角カッコを示す

### 5.4.1 セクション題

日本語の場合は、MS ゴシック (太字にしない) を、英語等の場合には Times New Roman の太字体を用い、12pt の左揃えで示すこと。セクション題の上に 10.5pt の空白行を入れる。セクション題の下には空白行を入れない。

### 5.4.2 サブセクション題

日本語の場合は、MS ゴシック (太字にしない) を、英語等の場合には Times New Roman の太字体を用い、10.5pt の左揃えで示すこと。真上にセクション題がある場合には、サブセクション題の上に空白行を入れず、真上にセクション題がない場合には、サブセクション題の上に 10.5pt の空白行を入れること。サブセクション題の下には空白行を入れない。なお、サブサブセクションがある場合も、サブセクションの扱いと同様とする。

#### 5.4.3 数字及び単位の表記

数字は、固有名詞を除いて、半角のアラビア数字に統一し、漢数字は使わないこと。

例：1つ，第2に，34人

単位の表記については、「数値+半角スペース+単位」とすること。

例：100 ms

#### 5.4.4 引用

間接引用については、その末尾に半角カッコ（ ）の中に文献の著者と発行年を入れて示すこと。直接引用については、その部分を「 」で囲み、直後に半角カッコ（ ）を用いて引用ページを添えること。引用部分が4行を超える場合は、「 」を用いず、別行とすること。引用を導入する文に、著者名及び出版年を記していない場合は、引用の末尾に著者名，出版年，引用ページを半角カッコ（ ）を用いて添えること。

#### 5.4.5 語句および例文

語句の例を示す場合、日本語の語句については原則として鍵カッコ（「」）を、英語を含む外国語の語句については二重引用符（“”），一重引用符（‘’），もしくは斜字体のいずれかを用いること。例文については、その上下に 10.5pt の空白行を入れた上で、丸カッコの中に通し番号を付け、和文の場合、全角1文字分、英文の場合、半角3字のインデントを入れて書く。執筆言語と異なる言語の例文には、必要に応じて単語（あるいは形態素）ごとにグロスあるいは全文の訳を付けること。ただし、英文はその限りでない。

#### 5.4.6 図，及び表

上下に 10.5pt の空白行を入れ、本文に組み入れること。図や表はすべて左揃えを原則とする。表については、表の上部に「表 1」のように例文や図とは別に通し番号を付け、改行した上で、表の題名を示すこと（左揃え）。図の場合も、図の上部に、「図 1」のように、例文や表とは別に通し番号を付け、改行した上で、図の題名を示すこと（左揃え）。フォントと文字の大きさは、和文の場合、MS ゴシック（太字にしない）、10.5pt を、英語等の場合には Times New Roman の太字体 10.5pt を用いること。図表の注が必要な場合には、9pt で図表の直下に続けること。

#### 5.4.7 統計

統計を用いる場合には、有意確率（ $p$  値）に加えて、効果量も必ず併記すること。また、論旨の上で重要となる数値については、95%の信頼区間等も適宜記すこと。

#### 5.4.8 執筆者情報

執筆者を特定できる以下のような情報はすべて\*\*\*\*（アスタリスク）で置き換えること。

- (a) 執筆者名および所属
- (b) 謝辞のすべての情報(各種研究助成情報も含む)
- (c) 投稿論文の基になった発表がある場合、発表した学会・研究会名や日時、発表名などの情報
- (d) 執筆者が特定できる先行研究  
例:\*\*\*\* (\*\*\*\*)
- (e) その他執筆者が特定できる情報

## 5.5 脚注

脚注については、本文末尾ではなく各ページ末の脚注を記すこと。9ptの両端揃えとし、各脚注の1行目は1文字分下げること。

## 5.6 参考文献

「参考文献」に記載する文献は原則として引用文献のみとするが、必要に応じその他参考文献を掲載しても良い。「参考文献」はMSゴシック（太字にしない）を用い、12ptの左揃え。改行の後、参考文献自体を続けること。参考文献自体は、10.5ptで示し、和洋の文献を区別せず、著者の姓のアルファベット順に並べること。英文の場合は、Referencesと左揃え、12pt、Times New Roman、太字で記入し、改行した後で、その続きに参考文献自体を10.5pt、Times New Roman、両端揃えで示すこと。なお、日英語ともに、各文献の情報が2行にまたがる場合には、2行目以降を全角2文字分下げること。ただし、投稿者自身が特定できる参考文献については、アスタリスクで置き換えて、特定ができないようにすること。掲載の様式については、英文の場合は、*Publication Manual of the American Psychological Association 7th edition* に準拠すること（ただし、出版地は削除せず記載する）。和文の場合は下記に定める書式に準拠すること。

### (A) 書籍

著者名、刊行年次、編者（監修者）名、書籍名、版数、出版地、出版社名を記載する。編集書、監修書のうち特定の章を参照した場合は、章題と所在ページ数を書くこと。なお、最後に「.」（半角ピリオド）をつけること。（以下、■は半角スペースを意味する）

#### (a) 一般例

伊達民和■(2019).『教室の音声学読本:英語のイントネーションの理解に向けて』大阪:大阪教育図書.

御園和夫・平坂文男■(2005).『コミュニケーション主体の英語音声学』東京:和広出版.

(b) 改訂版等

日本英語音声学 (編) (2015). 『英語音声学辞典』 (復刻版) 日進: 日本英語音声学本部.

(c) 編集書・監修書

東後勝明 (監修)・御園和夫・松坂ヒロシ・高本裕迅・阿野幸一 (編) (2009). 『必携 英語発音指導マニュアル』 東京: 北星堂.

(d) 編集書・監修書の1章

都田青子・近藤真理子・西原哲雄 (2018). 「第一・第二言語の音声特性と音声習得」 西原哲雄 (編) 『言語の構造と分析～統語論, 音声学, 音韻論, 形態論～』 東京: 開拓社.

(e) 訳書を参考にした場合

Wells, J. C. (2006). *English intonation: An introduction*. Cambridge University Press. (長瀬慶来 (監訳) (2009). 『英語のイントネーション』 東京: 研究社.)

(B) 逐次刊行物 (雑誌, 年報, 紀要等)

著者名, 刊行年次, 文献名, 所在刊行物名, 巻号, 所在ページ数 (DOI/URL) を記載する。なお, 巻数は斜字体で書き, さらに号数まである場合には後ろに号数を半角カッコ内に入れて記すこととする。また, 引用文献の最初と最初のページを「-」 (en ダッシュ) で結び, 最後に「.」 (半角ピリオド) をつけること。さらに, DOI や URL がある場合には, これも必ず記載すること。

上斗晶代 (2011). 「日本語話者の英語音調核の明瞭度と音響的特徴」 『英語音声学』 14/15, 209-221.

久保稔・金森強・中山晃 (2012). 「ICT を利用した特別支援学級における外国語活動」 『小学校英語教育学会誌』 12, 4-18. [http://doi.org/10.20597/jesjournal.12.0\\_4](http://doi.org/10.20597/jesjournal.12.0_4)

三浦弘 (2017a). 「ウェールズ英語とコーンウォール英語における二重母音 [ɪu] の分布と音価の相違」 『英語音声学』 21, 363-371.

三浦弘 (2017b). 「フィールドワークの試行錯誤」 『実験音声学・言語学研究』 9, 131-138. <http://www.jels.info/REPL/09/13Miura.pdf>

(C) インターネット上の資料の引用

著者もしくは著作団体名, 発信年次, 資料名, 発行機関名, URL, 資料にアクセスした日を記載する。URL は発行機関名の後, 行を変えずに続けて書く。なお, 発行機関名は著作団体名と同じ場合はこれを省略する。

中央教育審議会 (2016). 「幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申)」 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)

(2020年1月25日)

(D) 発表資料等

著者，発表年月日，発表の題名，会議名，開催都市，会場名を書く。

田邊祐司 (2018, October 27). 「日本の英語音声教育を彩った人々」(セミナー資料) 日本  
実践英語音声学会第1回研究大会. 東京: 専修大学神田キャンパス.